



しかはま自然観察会

のらえもん

2019 年度

(平成 31 年度)

No. 2

『 人も 自然も みんな友だち 』

2019. 4. 27 ~

第2回活動 早春の里山・藤原散策

桜は、みなかみ町道の駅付近で8分咲き、藤原に近づいてくるに従い5分咲き、蕾と、標高差によって成長はちがっていました。

タヌキ・キツネ・リスに出会い、遠くの雪面を横断するクマを確認することができました。

- 1, 日時：2019年4月27～29日 2泊3日
- 2, 天気：27日・・・雨→曇り→雪 気温（午後4時）0, 8℃ 室内8, 9℃
28日・・・晴れ 気温（午前6時）1, 4℃ 室内4, 4℃
29日・・・晴れ 気温（午前6時）0, 5℃ 室内4, 3℃
- 3, 場所：みなかみ町藤原一畝田の古民家
- 4, 交通：現地集合
- 5, 参加者：5家族 総数16人 内訳 大人 8
小学 5
幼児 1
スタッフ2

6, 活動の様子

雪囲いに被われたままの玄関。隙間から引き戸を開けて中に入って見ると、

「えっ、何、これ！」

「ゴミ溜めじゃないの？」

きれいにして帰った昨年。なのに、また、ゼロからのやり直しだ。

「少しも、積み重ねができないなー！」

初参加の周さんが、真っ黒になったぞうきんを何回もバケツで水洗いしている。

春日さんは、火おこし。山口さんは、壊れている水道を修理するために、道具を買いに町まで車をとばす。

この古民家を利用し始めて4年目。毎年、少しずつ使いやすくなっていると、明るい気持ちになるのだが、その逆だ。来るたびに、荷物がごちゃごちゃ置かれ、廃油の一斗缶が土間を占拠し、風が吹くと天井から黒いゴミが落ちてきてくる。一部は紙一枚の外壁。ガラスは壊れたままで、その隙間から野鳥が侵入してきて糞をまき散らしている。おまけに、至る所にカメムシがいて囲炉裏の炭火に放り込もうなら、くさい臭いのしっぺ返しにあってしまう。

ようやく水が出て火の確保ができれば、一安心。大人たちの張りつめた動きも、子どもたちの天真爛漫な声に救われ、また力がわいてくる。

◎ 1日目：4月27日（土）曇りのち雪

* 草木染め

雪を見ながらの、草木染めが始まった。

まずは、輪ゴムや紐を使って模様作り。子どもたちはハンカチに、大人たちはエコバックに。丁寧に手を動かす人、いい加減に輪ゴムを回す人。この違いが、模様に現れるのでした。偶然性が大きく作用するので、どちらがいいかは・・・その後のお楽しみです。

外のストーブでは、春日さんが玉ねぎの煮汁を作ってくれた。

バケツに煮汁を入れ、定着剤を投入し、模様のついたハンカチ・エコバックを水没させて、今日の作業は終了。

「時々、バケツの中をかき混ぜてね！」と、1本の棒を差し込んでおく。3日後が楽しみだ。

* 夕食は、山口シェフのカレーライス

4時過ぎには夕食の準備が始まった。山口さんは、ジャガイモの皮をむく。女性たちも、玉ねぎの皮をむいたり、食器の準備をしたりと、進んで参加してくれる。

ご飯は、七輪の上で、ゆっくりじっくり仕上げた。

「草木染めの模様作りが楽しかったです。では、いただきます！」と、たまねさんが、元気よく音頭をとってくれた。

カレーライス、おいしくいただきました！ご飯の鍋は、綺麗に空っぽになりました。

食後は、子どもたちは、傘を差して散歩にでかけました。

* 反省会は囲炉裏で

囲炉裏の回りには、春日さん特製のカーテンを張り巡らしました。この効果で、暖かさが増してきます。

囲炉裏をみんなで囲むと、やとホットとします。炭火の光と熱・集まった懐かしい面々・カーテンで囲われた空間・唯一の暖かい場所、そんなことが相乗効果をもたらすのでしょうか。

話の仲立ちをしてくれるお酒と肴。炭火で目差しを焼きました。始めはフライパンの上で焼いてみたのですが、焦げついてしまいました。網の上で焼くと、とっても美味しそうに焼けました。この目差し焼き騒動も、ここだからできる楽しい会話でした。

◎ 2日目：4月28日（日）晴れ

朝食は、ご飯とみそ汁のみ。みそ汁は、キャベツ1個と豚バラ肉400グラムをいれたもの。

* 雨呼山（あまよびやま・911山）登山

9時45分出発。登山口には「雨呼山の由来」を書いた看板がある。みんなで声を出して読んだ。「日照りの災難を避けるために、この山に登り、天に向かって大きな声で雨を呼んだ」という。

道には杉の枝が落ちていて、不明瞭だ。初めての人は迷ってしまうだろう。落

ち葉が厚く積もった道をトラバースぎみに進むと、唯一の難所だ。急傾斜で岩肌が露出している。でも、わずかの距離だ。あとは、落ち葉の尾根を凹凸に歩くだけ。途中、ブナの木が見えてくる。この木は、なんとなく気品があるように思えてくる。クロモジの枝を折って、臭いをかいでみる。今年は寒かったのだろうか？木々の芽吹きは、ない。ゆっくり歩き、約40分程で山頂に到着。ここからの眺めは絶景だ。民宿関ヶ原の通りに視線を走らすと、藤原湖から棚田を左右に見て宝台樹スキー場の一番上が武尊山だ。左に目線に移すと、山の間に銀色の四角いホテルがニョキッと出ている。更に左には、尾瀬方面の山々が真冬のような姿だ。

山頂直下には、ショウジョウバカマが薄紫の可憐な花を咲かせている。写真担当の山口さんは「写真は撮ったが、採っていない」という。ここから駐車場のある寺山峠までのコースは、起伏が少なく日だまりで、ブナ・ミズナラや苔の美しい所だ。

車道からの眺めも、一味ある。房のような花をさかせているキブシ。麓まで見下ろせるミズナラ林。ところどころにある桜は、標高差によって花の付き方が違う。名倉川でタヌキに出会い、応永寺で清水を呑み水芭蕉を見、昼食のカレーライスの待っている関ヶ原に着いたのは、12時30分だった。帰りには、一畝田の田んぼを横切るキツネがいた。

古民家に付いたら、「温泉に行こう」となった。2台の車に分乗して、雨呼山から見た銀色のホテルに向かう。肌すべすべの柔らかい温泉で、白樺の眺めがいい！タオル付きで、大人1080円、小人540円。

* 夕食は焼き肉で

山口シェフは、手羽の仕込みを始める。ここでは、食事の準備時間がとても長い。七輪の用意。椅子やテーブルは、あるものを工夫して作り出す。それらはここの雰囲気にあって、ほほえましい！

メニューは、手羽・牛・キャベツのみそ汁・阿部さんの差し入れ料理（豆と山栗入りのご飯・ゼンマイの煮物・キュウリの漬物・菜花の味噌和え）。そして、採ってきたばかりの菜花のナムルを、高松さんが作ってくれた。

満天の星空の下、たくさんの家族が一同で食べる食事は、いいもんですネー！

* レクリエーション

時間は8時近い。真っ暗な夜道を、流れ星を探しながら体育館へ向かう。

ボールで、好きなように遊ぶ。次は、バレーボール。ネットをなかなか越えない。うまく打てない・当たらない子どもたち。笑顔で見守る大人たち。全員で片付けをして、消灯。再び真っ暗な道に行く。小さい星から大きい星まで、たくさ～ん！北斗七星の位置が動いている！

◎ 3日目：4月29日（月）晴れ

* 草木染めは、どうなっているかな？。輪ゴムをとり、小川へ水洗いに。それらを、一本の紐にかけて干す。一人一人の作品が、風になびく。

* 朝食は、昨夜の残り。おじやがおいしい！

* 9時、野焼き見学へ出発。上ノ原の風物詩だ。

- * 奈良俣ダムで昼食。80トンのダンプカーのタイヤの大きいこと！
- * 林さんの畑で、菜花摘み。お土産に、たくさんいただきました。
- * 16名の自主的な活動が加わり、実り多い古民家キャンプになりました。

7, 親と子のいきいき感想

- ◎ 火おこしが、たのしかったです。

トイレが、むずかしかったです。(便座が高くて、足が届きにくいのため)
ねぶくろが、あったかかったです。
むしがいた かえるのたまご さわれたよ

王子小2年

- ◎ きつねをみました。かわいかったです。

すぐにきつねはにげちゃったけど、いろいろたのしかったです。

鹿浜五色桜小2年

- ◎ きつねを見るのが、たのしかったです

鹿浜第一小2年

- ◎ (草木染めで) バンダナにゴムをまくことがむずかしかったけど、たのしかったです。

初めてタヌキをみたけど、かわいかったです。

バレーボールは、うまくなかなかできなかつたけど、うまくできるようになって、うれしかったです。

火をつける たけでフーフー おもしろい

鹿浜第一小4年

- ◎ 初めての古民家。薪ストーブや、いろりに炭でお湯をわかしたりと、蛇口をひねればお湯がでて、スイッチひとつで暖房がつく生活からすると、大変ですが、じんわりあたたかいいろりがとても心地よかったです。

すぐ裏の用水路であそんだり、田んぼにおちたり、山のぼりの帰りにタヌキやキツネを見たり、野焼きの向かいの山では熊らしき物体を見たり、子どもも大興奮でした。

広い景色の中、たくさんのおつくしやきれいな山、とても大人もいやされました。

母

- ◎ 山のぼりが、つかれました。

ゆきあそびが、たのしかったです。

高野小1年

- ◎ 3日間、雪に降られ大変なこともありましたが、

たくさんのおよい体験ができました。

母

- ◎ 去年より、寒かった。初日、雪が降りました。

次の日は、晴れだった。外で、ハイキングしました。雪のせいで、土がつるつるになって、たまに滑った。

全体的に、楽しかった。

星綺麗 夜空眺めて 覚えたい